

会議録

名 称	平成 29 年度第 1 回岸和田市地域公共交通協議会									
開催日時 及び場所	平成 29 年 6 月 1 日（木）午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分 岸和田市立産業会館 集会室									
出席者 委員 29 名 うち 出席 26 名 代理 4 名	根末	春木	津村	大井	阪部	多和	宮野	長澤	岩佐	山崎
	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
	酒井	辻	澁谷	片桐	吉野	安藤	西田	寺田	田中	戸治野
	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日野	伊勢	湯川	田内	太田	安渡	別所	西岡	土井	
	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
	事務局（まちづくり推進部市街地整備課） 実森課長、岸田交通政策担当主幹、本田主査、鎌刈主査、新谷									
傍 聴 者	2名									
<p>＜＜概要＞＞</p> <p>■ 議事</p> <p>① 構成委員の変更について ② 平成 29 年度第 1 回幹事会について ③ 岸和田市交通まちづくりアクションプランについて ④ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】について ⑤ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【公共交通編】について</p>										
<p>＜＜内容＞＞</p> <p>■ 岸和田市地域公共交通協議会の会議録について （会長） 会長より本日の会議録署名人として澁谷委員を指名</p> <p>■ 内容</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>① 構成委員の変更について （事務局） 資料 1 を用いて説明 構成委員の変更について了承を得た。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>② 平成 29 年度第 1 回幹事会について （事務局） 資料 2 を用いて説明 平成 29 年度第 1 回幹事会について了承を得た。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>③ 岸和田市交通まちづくりアクションプランについて （事務局） 資料 3 を用いて説明 （意見なし） （会長） 本日の協議会の位置づけを確認頂いたということで、この件は終えたい。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>④ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】（素案）について （事務局） 資料 4 を用いて説明 ～委員からの質問～ （委員） 23 頁。カバー率は高いのに利用状況は低いのが現状なので、どこをどういう風に工夫していったらよいのか考えて、計画に反映する必要がある。 （事務局） 現状を表しているグラフであるのでそれを基に検討していく。</p>										

- (委員) 10頁。観光客が287万人というのがおかしいという事項を前回質問した。287万人は間違いはないという事でよいのか。
- (事務局) 観光部局に問い合わせた結果、観光部局で把握している観光入込客数とのことであったので、そのまま記載している。
- (委員) 前回質問したのは100万人観光客が来たとして、1000円使えば10億のお金が入る。287万人が1000円使えば30億入る。10000円使ったら287億円入る。そのくらい観光客というのは、カウントするのが非常に微妙で難しい。カウントを間違えば、それに関係する予算に問題が出ると思うが、287万人のうち、国内の人、岸和田市外の人、外国の人、それぞれ何名なのか。287万人も観光客が岸和田市に入っているとは考えられない。どういったカウントの仕方をしているのか。
- (事務局) 国内なのか、外国の観光客なのかはわからない。施設の利用者数でカウントしている。観光部局に計画数値を照会し、いわゆる上位計画という所でその数字がでていうことである。カウント、集計の仕方について意見をいただいていることも観光部局に周知している。交通の計画で観光客数の目標数値を変えるわけにはいかないの、基準としているカウントの仕方その数値を使っているという事である。
- (委員) 交通の場合でもこれは非常に大事な数字である。287万人でいくのであれば交通の道路計画から観光に対する市の予算も違ってくると思う。現在、市の予算はいくらなのか。
- (副会長) その数字は、本資料に記載しているのか。
- (事務局) それについては、【公共交通編】の36頁に掲載している。この表の観光入込客数についてご指摘いただき、観光部局に再度問い合わせをしたところ、現状はこの数字という事である。今後、この数字が変更することになれば、連動して変更していく事になる。
- (委員) 岸和田城が3~4万人であるのに、287万人というのは、桁が違ってしまうからおかしいと指摘している。間違いはないという事で良いのか。
- (会長) 観光部局でカウントしたものをこちらで修正するという事は不可能である。観光部局で修正等があった場合はこちらでもただちに修正してすすめる、という方向でよろしいか。他に資料4について質問があるか。
- (委員) 9頁。「一部の公民館・青少年会館には、鉄道やバス路線から離れている場所に立地している施設」とあるが、ここについてバス路線でカバーしていくという流れはあるのか。
- (事務局) その話は【公共交通編】で施策展開していく際に検討していくことである。【基本計画編】についてはあくまでも市の現況を示している。
- (委員) 理解の仕方になると思うが、31頁の表題「交通結節点」について。内容は駅前広場についてのみ述べていると思うので、表題も「駅前広場」が適切ではないか。交通結節点は鉄道やバスとの乗り換えということが「交通結節点」ということであれば、全てが包括されている。意味の考え方、取り方を間違えると次の議論で違和感が出る。
- (事務局) 鉄道とバスとの結節点のみではなく、例えば地域バスとバス、バスとバスもあると思うので、項目としては「交通結節点」としている。現状では、鉄道とバスの結節点しかなく、それが駅前広場ということである。
- (委員) 蛸地藏駅もバス停がある交通結節点になるという理解でよろしいか。
- (事務局) 蛸地藏駅も都市計画決定された駅前広場であるので、将来的には交通結節点を作る計画が決定されているので、合わせて表記している。
- (副会長) 交通結節点に求められる施設のひとつとして駅前広場という事である。駅前広場として備えていなければならない機能という事なので、ここでは駅前広場の機能としての乗り換え機能を交通結節点と捉えていると思う。「交通結節点としての主要な施設である駅前広場の整備状況を見ると、現状はこうである」と記載するとよいのではないか。
- (委員) これは一般市民に公開するのか。
- (事務局) 市の決定を受けて、パブリックコメントを通じて公表する予定である。
- (委員) それであれば、もう少しわかりやすい言葉を使用しないと。難しい漢字ばかり並べていたのでは読んでもらえない。
- (事務局) 最終的に岸和田市の計画素案としてパブリックコメント等の手続きを経て、岸和田市交通まちづくりアクションプランとして策定したいと考えている。素案が出来た時点で用語解説を加え、体裁を整えた上で計画案としてとりまとめをさせていただく。

- (委員) 50 頁に脱字。「踏また」→「踏まえた」
- (副会長) 交通結節点の所で一つの案ではあるが、「交通結節点として持つべき主要な施設としての駅前広場のうち施設の整備状況を見ると」と修正されてはどうか。
- (事務局) 先生のご提案の通り「交通結節点の主な施設である駅前広場」と文言を修正する。
- (会長) 31 頁については一部修正する事となった。
岸和田市交通まちづくりアクションプラン【基本計画編】についてはよろしいか。
(異議なし)

⑤ 岸和田市交通まちづくりアクションプラン【公共交通編】について

- (事務局) 資料 5 を用いて説明

～委員からの質問～

- (委員) 17 頁の方針④について。「既存の公共交通サービスが十分でない地域では」とあるが、具体的にはどの地域なのか。「サービスが十分」なのはどの地域か。何をもち「サービスが十分」と解釈するのか。「サービスが十分」な地域には地域バスは導入されないのか。
- (事務局) それは住んでいる地域の方が判断する。
- (委員) 住んでいる地域の方が、地域バスを導入するかしないか判断するということか。
- (事務局) それで成り立つような計画が作れるのかという所にはなる。利用者が見込めて、見合うだけの収益が考えられるルート設定であれば、導入していけるのかなと思う。
- (委員) 話は全地域ですか。
- (事務局) 各地域ごとに町会等通じて説明し、そこから声を聞きに行く、という形になる。
- (委員) 5 頁。公共交通(路線バス等)の維持・確保の必要性に関する回答について「牛滝の谷地域(約 86%)が最も多く、次いで岸和田中部地域(約 84%)、葛城の谷地域(約 82%)」とあるが、どれも山手の地区の方が必要性を感じている。陸の孤島にならないようにしないといけない。それには住人の声も必要だが、山滝地区から和泉中央方面への公共交通を充実すべきではないか。車が運転できなければ、どこで買い物をすれば良いのか。【基本計画編】の 39 頁で「人々の生活支援」としての交通施策を考えていくことが必要」、43 頁にも「山間部から近隣市町へ誰もがスムーズに移動できる」と盛り込まれているので、岸和田駅中心だけでなく、山手の方々にも目を向けていく必要があるのではないか。
- (委員) 19 頁。方針②の施策⑥で「JR 阪和線東岸和田駅付近高架化事業の推進」と具体的に記載しているが、久米田駅や春木駅はこの計画では手を付けないということか。
- (事務局) 春木駅と久米田駅については施策④「交通結節点の整備」で検討を進める。東岸和田駅については、高架事業がほぼ終わるので、それに基づく広場と側道の整備を推進する意味合いで記載している。
- (委員) 八木市民センター前にバス停がないが、新設する考えはあるか。
- (事務局) バスが安全に通行できる道路の確保が困難という事で、入っていない状況である。
- (委員) 道路を拡張するとかはないか。
- (事務局) 現状では今ある路線をどう維持するかが路線バスについては一番の目標であり、その他の地域については地域主体のバスの導入を地域主体で進めていくという方向性であるので、路線バスについては新規路線は当面設定するよりも再編という方向性である。
- (委員) 八木地区で地域バスが導入されなければ現状のままということか。
- (事務局) 現状、利用者ニーズがないという判断である。
- (委員) 八木市民センター利用者は、八木地域の住民だけではないが、それに関してはどうか。
- (事務局) 地域をどこまで捉えるかだが、八木地区が自主運営しないのであれば、もう少し広げた地域で運行をするようになっていくと思う。
- (委員) あくまで地域で運営するバス次第ということか。
- (事務局) そうということになる。
- (委員) 29 頁のアプリに関してだが、使用してみたのだが、ルート検索が出来るのがすごいと思った。観光客なら紙媒体のものより分かりやすく、とても良いと感じた。しかしバスの本数が少なすぎて「徒歩」と案内されることも多く、アプリは良いのだが移動しにくい現状ではないかと感じた。
- (委員) 「公共交通」というのは、これではこういった捉え方をしているのか。例えば 9 頁、ここでは公共交通はどこまでになるのか。

- (事務局) 「不特定多数の方が誰でも乗れる乗り物」ということで、タクシーも含め、すべて公共交通である。
- (委員) 9頁の丸はすべて公共交通という認識でよいか。
- (事務局) そうである。
- (委員) それでいくと12頁。1.1.3(1)の所で「公共交通(路線バス等)」と記載しているが、場面ごとに言葉の使い方が違う。ここもタクシーは入るのか。
- (事務局) このアンケートが、バスに関するアンケートを実施したものになっており、ここの「公共交通」というのが路線バスとローズバスを指している内容となる。
- (委員) 「公共交通」というのは、タクシーまでという事は間違いないのか。一部言葉の使い方が違うということであれば、後の理解度が変わってくる。市民に公開した際に違和感を持たれかねない。
- (事務局) アンケート自体は「公共交通」アンケートというタイトルだが、自動車の保有台数から質問をして路線バスの利用状況調査の中でバス交通についての質問をしている。最終的には公共交通やバス交通を維持する事に関する質問となっているのでここでは路線バスを対象としたアンケートという事となる。
- (委員) それなら注釈を入れなければならない。
言葉が、ある頁によって伝え方が違うと誤解を生むので、例えば用語集をつくる等したほうがよい。
- (事務局) 用語集は付けさせていただく。ここではアンケート結果の報告なので、アンケートの質問そのまま記載している。
- (会長) ここについては、若干の注釈をつけるという事でよろしいか。
(異議なし)
- (委員) 6頁。公共交通の将来像について。この二つの絵はこのまま捉えてよいということか。
現状は、車と自転車が大きく記載されている。これからの岸和田市は、電車とバスとタクシーが大きくなっている。自動車と自転車が小さくなり、徒歩が大きくなっている。
- (事務局) 上の絵は交通分担率の部分で、バス等の公共交通の利用割合が少ないことを表している。下の絵は、公共交通の選択肢を拡げようという意味で同じ大きさにしている。鉄道を大きくしようとしているわけではない。割合については言及していない。
- (会長) 現状は、分担率に合わせている。将来は、鉄道が大きく見えているが、同じ大きさのつもりで記載している。
- (委員) 30頁。「施策⑪地域住民主体による持続可能な運行を支える協働の取組み」がとても重要であり、岸和田で初の取組みなので、丁寧に進めていく必要があると思うが、地域住民との話し合いをうまく進めないと、難しい問題だと思う。検討会の立ち上げや持続にパワーが必要で、上手く話し合いが出来るのか心配なのだが、何か工夫はあるのか。
- (事務局) 地域バス導入の成功事例、失敗事例もたくさんある。タイミングもあると思うが、市も情報を持って地域の方に提供しながら進めていきたいと考えている。
- (委員) 個人的な意見として、慎重な町会である。社会福祉協議会にコーディネーター的役割で入って頂くと、とりもってもらえる面もあると思うが、如何か。
- (事務局) 社会福祉協議会からの福祉の観点からの活動の一つとして、ご協力いただけるということであれば、やぶさかではないと思う。一つの方法であると思う。
- (委員) 事務局的には積極的に進めようという考えはあるのか。
- (事務局) 我々から社会福祉協議会に依頼することはない。
- (委員) 具体的には、どのような入り方をするのか。
- (事務局) 現段階では、自治会から要望を頂いている地域もある。そのようなご要望のあったところへ、提示して進めていく。一度に市域全部の対応は不可能である。以前から課題認識がある地域については、現段階でも説明に伺っている。市の計画として策定されたら改めて伺うというお話をしている。
- (委員) 全市一度には難しいと思うが、具体的にはいくつの地域くらいかは決まっているのか。
- (事務局) 地域数は決まっていないが、目標としては複数件やっていきたいと考えている。ローズバスの試行運転をした地域、市の補助金で運行している地域には、解決策の一つとしてご案内させて頂く予定である。
- (委員) その地域は教えてもらえるのか。

(副会長) 議論の論点が違うところへ行っている。施策については、代表的なものを書いている。具体的にどうするのかということは、今後の話である。計画が認められたら、具体的に進められる。今の段階で、具体的な地域まで特定してしまうのはここでの議論に馴染まない。計画が決まった後に具体的な個々の議論をするべきである。

(委員) 論点がずれて申し訳ない。ただデリケートな問題なので、上手く進めてもらいたいという思いがある。

(副会長) わかりにくいのが評価指標のアンバランスさである。目標値が書いてはあるが、色々やってもなかなか達成できないものである。人口が減っていく中で利用が増えないかも知れない。そうすると、この計画自体が駄目なのではないかという事になりかねない。本来計画というのは、考え方(方針)を示して具体的な施策を考えるということなので、本来は施策に対してどれだけ効果があったかを見るべきものだと思う。施策がいくつか書いてあって、例えば利便性の向上の所で、最後の表ではICカードの事しか書いていないが、前のほうでは、色々書いてある。結果的にはICカードの利用率だけでこの指標のよし悪しを判断しようとしているように見える。そのあたりが分かりにくい。施策に対して、どれくらい効果があったか見られるようにしておかないと分かりづらい。頑張っても指標に表れない可能性もある。このままで進捗管理ができるのか。

(委員) 指標というのは、具体的に皆にわかりやすいものを設定するのが基本だが、各自治体によっては、おおまかな数字を公に出しているという所もある。具体的に良い・悪いを判断するのは難しい。第三者から見て判断をするときに、岸和田市が対応できるのかどうかになってくるので数字だけで見えてしまうとなかなか難しいかも知れない。評価指標というのは公にする数字と、実際に把握されている数字とは加味しないと、自治体が困るのではないかと思う。

(副会長) 計画そのものと、皆で議論して決めた方針に基づいた評価があって、具体的な施策の評価があって、その結果として効果があると思う。達成できなかったからどうなのかという評価をするときに、例えば利用率が増えなければ計画そのものを改善するのかとなると、そもそも基本計画を作っておきながら、うまくいかなかったらもう一回考えようというのは短期的に変えてしまうことになるので、実態と合わない。それならばこれらの施策、あるいは施策のもとになっている方針等をわかりやすい指標で評価したほうが、よいのではないか。

方針に従って、代表的な施策に関する指標をいくつか入れたらよいのではないか。それは全部出来なくてもよいが、いくつか達成出来ればよいことではないか。そして最終的に、結果として利用者が増えればよいのではないかと思う

もうひとつは、方針ごとにいくつか指標を入れて、こういうものを達成しようという形にできないのかなということである。

(事務局) 今日説明した内容でご承認をいただけるのであれば、修正をさせていただく。

(会長) 頂いたご意見をふまえ、次回に修正をお願いしたい。もう一度【基本計画編】とおなじように【公共交通編】も一任ということにさせていただくがよろしいか。

(副会長) 指標については、市と国で調整して頂き、国のご指導をあおぎながら、会長一任ということをお願いしたい。

(委員) このアクションプランや基本計画を作成して、市がどのようなことをしたいのかというのがわからないので、先ほどのご意見があったのかと思う。そもそも、何を目標にするのか、論理を組み立てたら良いのではないか。

(会長) 修正にあたっては事務局には相談していただきながら作業を進めて頂き、会長一任とお願いしたい。

(異議なし)

⑥ 公共交通に関する連絡事項

(委員) 資料6を用いて説明

⑦ その他

(事務局) 以降、会長一任ということで、必要な修正を行い、本協議会における素案としたい。先程ご説明のあった通り、用語集の作成、体裁等整えて岸和田市の計画案としてパブリックコメント等、手続きを経て策定したいと考えている。修正、体裁を整えた計画案についてはまとも次第各委員に報告する。

次回の協議会は次の案件である総合交通戦略策定協議会である。資料等が出来次第、改めて日程を決定し、連絡させていただく。

(会長)

以上をもって、第4回岸和田市地域公共交通協議会を閉会とする。

岸和田市地域公共交通協議会会議運営規程第5条の規定により

平成29年度 第1回岸和田市地域公共交通協議会の会議録をここに署名する。

議 長

署 名

会議録署名人

署 名